

3. 平成30年におけるホウレンソウの生育状況

4

- 9月中旬播種のホウレンソウより茎中心部の葉に縮れが見られた。原因不明のまま播種後20日目にアフーム乳剤(2,000倍)を散布したが、10月下旬ころの収穫に影響が出始めた。(次ページ参照)
- 更に、10月下旬播種分では中心部の葉が著しく縮れ(右写真参照)、12月中旬からの収穫(約5m²分)を全て廃棄処分とした。症状を認識した時点(播種後25日目)でアフーム乳剤を散布していたが効果がなかった。
- 依然として原因は不明。



中央の葉が縮れる

4. ホウレンソウ 畑の準備～播種～収穫

5

畑の準備

播種

収穫

平成 30 年

	9月						10月						11月						12月					
	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-31	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-31
区画1			9/14 牛糞ぼかし 1.0kg/m ²	9/20 フォルティン モ				10/10 アファーム 2000			10/22													
区画2		9/9 苦土石灰 100g/m ²	高度化成 14-14-14 50g/m ²					10/9 ソナタ7							11/18 アファーム 2000	11/22								
区画3			ハイグ リーン 50g/m ²							10/23 ソナタ7					11/18 アファーム 2000	11/19 ゼンターリ 1000						ホウレンソウ ケナガコナダニの 対策遅れで全て廃棄		
区画4													11/7 苦土石灰 125g/m ²	11/8 ソナタ7							12/14 アファーム 2000			
区画5													みのり堆 肥 1.25kg/m ²				11/21 ソナタ7				12/14 アファーム 2000			
区画6													ハイグ リーン 31g/m ²							12/6 ソナタ7			12/21 アファーム 2000	

5. ホウレンソウ 葉の縮れ原因調査

6

- 葉の裏や根元や地中を調べたが害虫は見つからず。
- 当初、中心の芽部分をルーペでみても気づくことはなかったが、中心芽部分を割ってみて多数の0.2mm程度の小さなダニを発見した。

(右写真参照)

- インターネットで調べたところホウレンソウケナガコナダニによる被害であることが判明



2018/12/18 ホウレンソウケナガコナダニ

中心芽部分の拡大写真(左側の最小目盛り0.1mm)

6. ホウレンソウケナガコナダニの対策

7

- ネット上の情報によると施設栽培でホウレンソウケナガコナダニの発生が多くみられるようである。
- 農薬としてはアフーム乳剤、フォース粒剤が有効であることが判る。
- たまたまアフーム乳剤を散布していたが発見が遅れたためか芽中心に入り込んだダニに効果がなかったようである。
- アフーム乳剤の散布は8葉期位までの葉が込み合わない時期に行う必要があるようである。
- 平成31年4月播種時からフォース粒剤を土壌混和し、更にアフーム乳剤を8葉期あたりまでに予防散布しており、それ以降にホウレンソウへのケナガコナダニの問題は発生していない。

7. ホウレンソウケナガコナダニが及ぼした影響

8

- 次スライドの「年間売上グラフ」の下段表をみても分かる通り、10月以降のホウレンソウの売上が極端に落ちていった。
- ホウレンソウの代替作物として当初から考えていた小松菜にはホウレンソウケナガコナダニは付かず影響が見られなかった。
- コカブもこのコナダニの影響は無かった

8. まとめ

- ホウレンソウケナガコナダニの発生は気付いた時点で手遅れとなるため予防措置が必要。特に施設栽培では要注意。
- 播種時点でフォース粒剤を土壌混和し、8葉期ころまでにアフーム乳剤を散布することが有効
- 未完熟堆肥はケナガコナダニの餌になるため使わない(県技術センターの指導による)
- ホウレンソウケナガコナダニの発生が心配な場合は小松菜などの代替作物を作付けする。